

黒毛和種素牛の飼養管理改善 ～素牛市場評価向上に向けた飼養管理を改善（改善農業者戸数1戸→2戸）

（課題番号 8）

- ◆活動年次：令和5年度～令和6年度
- ◆対象：浦河町富里地区 黒毛和種繁殖経営（4戸）
- ◆目標事項：ほ乳から離乳期までの飼養管理改善実践（2戸）
- ◆到達度合：取組実践1戸（50%）

1 課題の背景

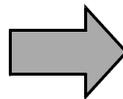
子牛販売価格は下落傾向にあり配合飼料や代用乳の高騰で経営は逼迫している。その中で農業者は子牛の発育を改善し早期の市場出荷を実現させる管理方法について支援を求めている。

<発育停滞要因>

- 下痢症（出生後7～10日まで）
- エネルギー不足
（出生30日齢～50日齢）
- 飼料切り替え（離乳時期）

<ほ乳から離乳期までの課題>

- 初乳の確実な給与
- 個体管理～群管理への環境改善
- ほ乳量、固形飼料の摂取量向上
- 離乳時に摂取量を落とさせない給与の実施



令和4年は哺乳から離乳期までの管理について理解が深まるよう情報交換を行った。



写真1 哺乳から離乳期までの管理を確認

市場出荷目標となる体格

♠去勢牛（8～9カ月齢）
胸囲：160cm以上＝体重 300kg
体高：115cm以上

♥雌牛（9～10カ月齢）
胸囲：158cm以上＝体重 280kg
体高：110cm以上

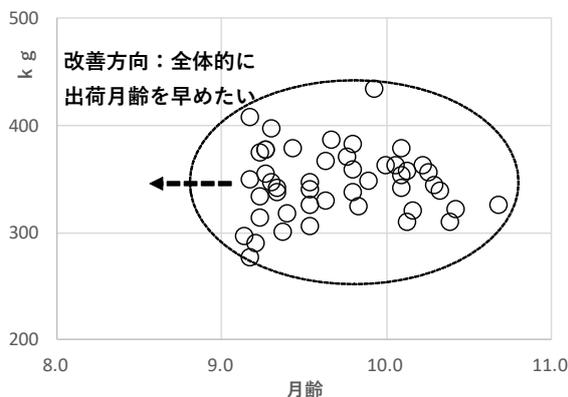


図1 出荷去勢牛の日齢と体重（R4年出荷牛）

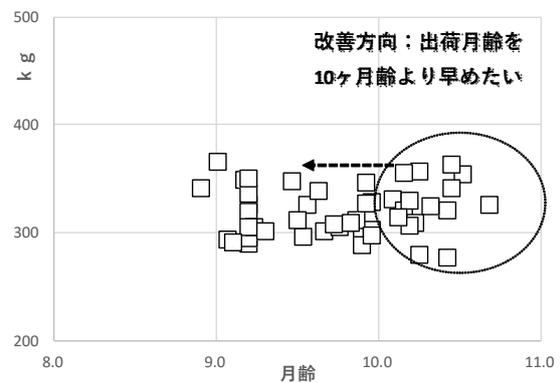


図2 出荷雌牛の日齢と体重（R4年出荷牛）

対象農業者において去勢牛は8～9ヶ月齢に300kg以上で出荷される牛はほとんどいなかった。雌牛は9～10ヶ月齢で280kgを越す牛もいる一方、10ヶ月齢を超えて出荷される牛も多い。日増体量を確認しながら目標に向かって牛を管理することが重要となる。

2 活動の経過

定期的に対象農業者を巡回し、素牛市場評価向上に向けた情報提供を行った。また毎月家畜市場で、JA担当職員や地域の和牛改良組合農業者と出荷牛体格について情報交換した。

<支援内容>

- 良質な初乳給与の重要性を説明（全牧場）
- 体格調査による胸囲（推定体重）と体高の増大量を農業者に提示（A牧場、B牧場）
- 皮膚病対策方法の紹介（C牧場、D牧場）

<農業者が取り組んだこと>

- 抗体が多く含まれる初乳給与の重要性を理解
- 計測結果を個体の管理に反映（哺乳方法や飼料給与量、群編成）
- 農業者が現場でできる対策方法実践

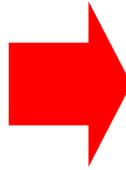


写真2 農業者と連携し胸囲を測定



写真3 離乳期の子牛に混合液を塗布

3 活動の成果

体格調査結果は農業者の飼養管理変更の判断材料となっている。農業者Aさんは調査牛の発育不足は「群飼い」による飼料摂取量不足のためであることに気づき、個別管理に変更した。そのおかげで対象牛は順調に育っている（図3）。A牧場は哺乳期における個別の観察を重視しており、その成果が販売額にも現れている。

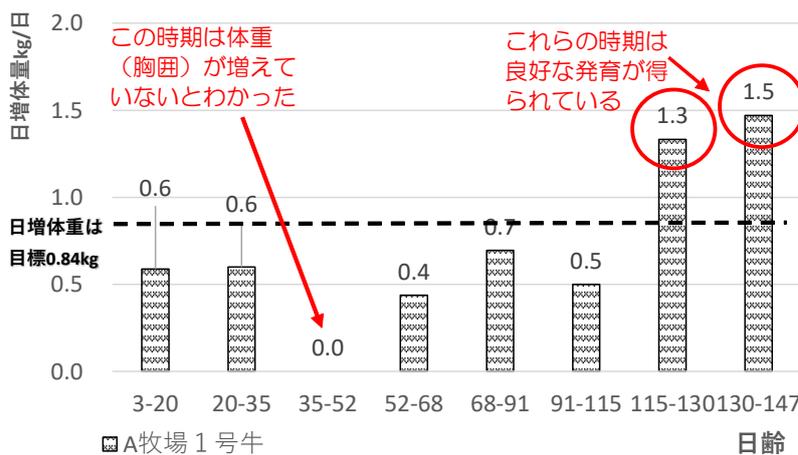


図3 A牧場1号牛の日増体量の推移

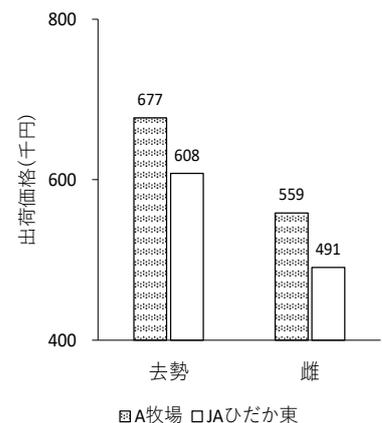


図4 平均出荷額の比較（R5年）

4 今後の対応

- ・離乳前の発育改善を提案し、目標体重への早期出荷を支援する。
- ・対象農業者の疾病発生状況を整理し予防に向けた提案を検討する。
- ・家畜市場データを整理し、市場評価を高める血統情報を整理し情報提供する。